

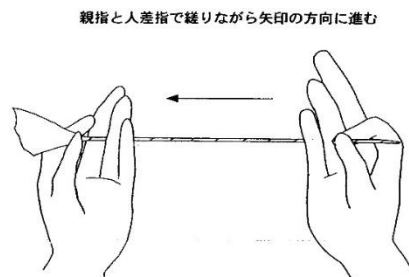
和装本「四つ目綴じ」をつくる

和装本の装訂にはさまざまなものがありますが、ここではその代表的な例として、線装本のうち「四つ目綴」の方法を紹介します。

和装本は簡単に製本できるものが多く、また、丈夫でしなやかな和紙を使い、接着剤をほとんど使っていないので、軽く、柔らかく仕上がります。したがって、壊れにくく、また壊れても簡単に修理でき、容易に解体して仕立て直すこともできます。そのため世界的にも最も優れた製本方法のひとつとも言われています。

手順

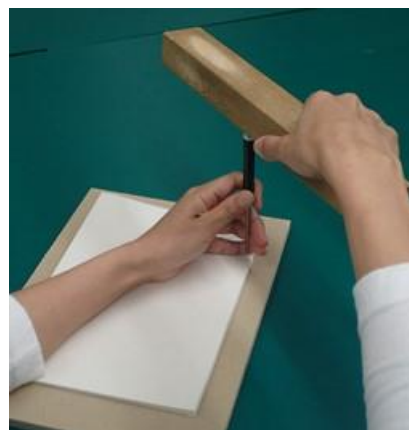
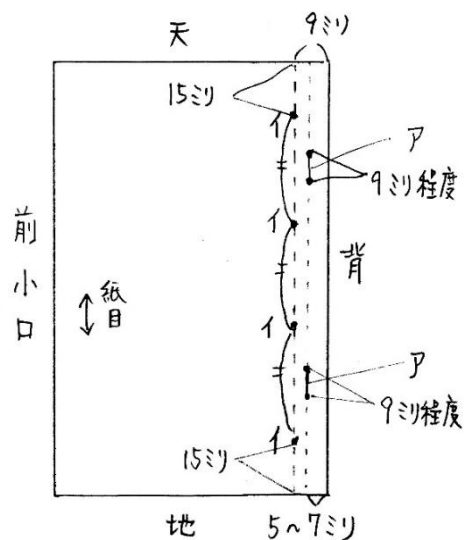
1、中綴じに使う紙縫^{こより}を2本作る



2、中綴じ用の綴じ穴をあける

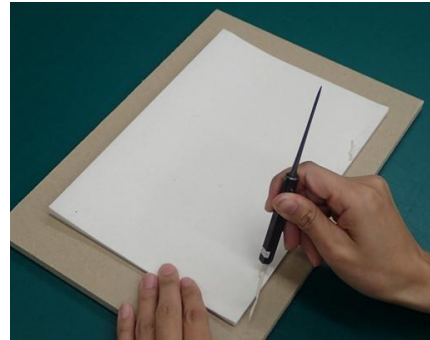
本紙の前後に見返しとなる紙を入れて、形を整える。

下図のアの上下に（位置はイとイの間くらいになるとよい）目打ちで穴を開ける。



3、紙縫りで中綴じをする

①の紙縫いを、結び目が裏側にくるように通して、ひと結びする。結び目を目打ちの頭などで押して平らにし、結び目から4～5ミリのところで切る。

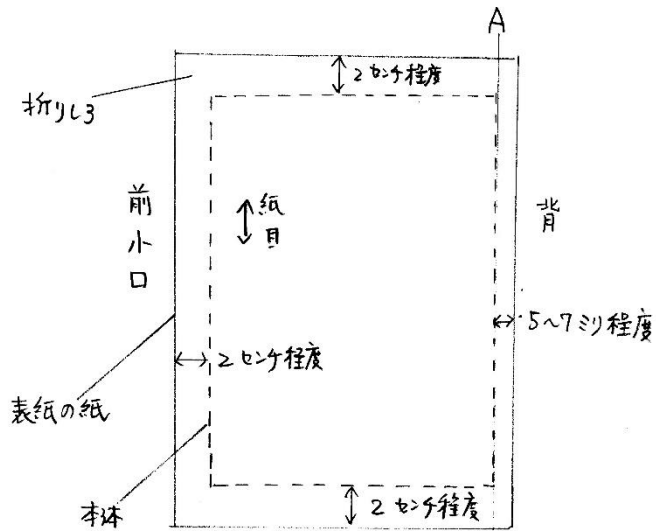


4、表紙をつくる

まず前表紙背側の折り込みを作る。

表紙の裏側を表にして置き、図のA線の位置に定規を当て、折りやすくするために目打ちの腹で筋をつけて内側に折る。

後表紙も同様に。



5、表紙と本体を仮止めする

前表紙側の本体、見返しの中心に少量の糊を塗って、本体の背と表紙の背を合わせて貼る。

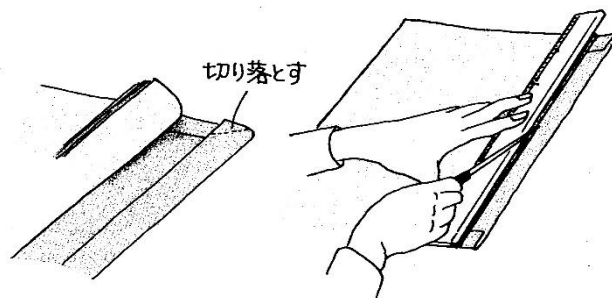
(表紙の仮止め)

板に挟んで重しを載せて、糊を完全に乾かしてから次の作業をするとよい。

6、表紙を折り込む

表紙の天地、前小口の三辺は、本体とぴったり合わせて目打ちで筋をつけ、内側に折り込み、四隅は折り込んだ紙がはみ出ないように、ハサミで切り落としておく。

同様にして後表紙もつける。



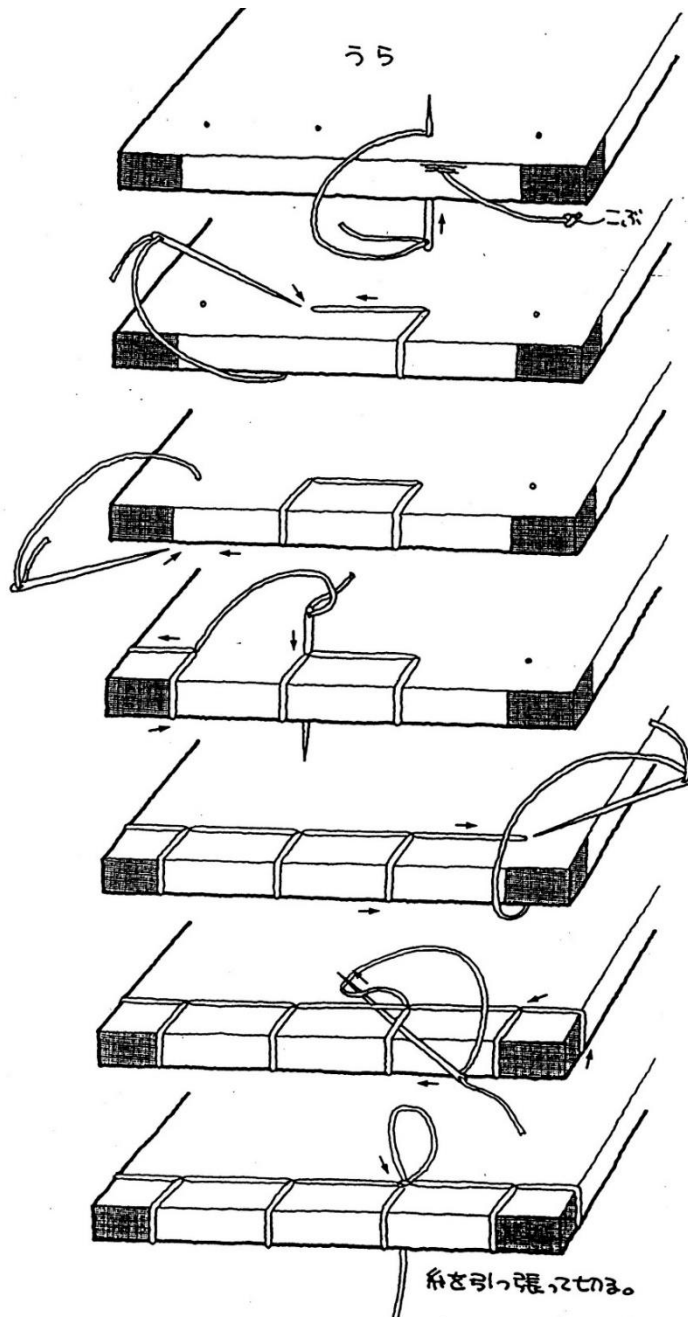
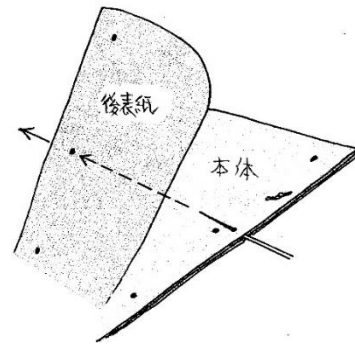
7、綴じ穴をあける

1 ページの図のイの部分に、表側から目打ちで穴を開ける。

8、糸で綴じる

糸は天地丈の3倍ないし3倍+対角線分くらい用意し、針に通す。端は玉結びとし、右図のように裏側から本紙を数枚すくって、2番目の穴、背側の脇から針を入れ、後表紙の穴に通す。玉結びの部分が出っ張らないように目打ちの頭などで押して平らにしておく。

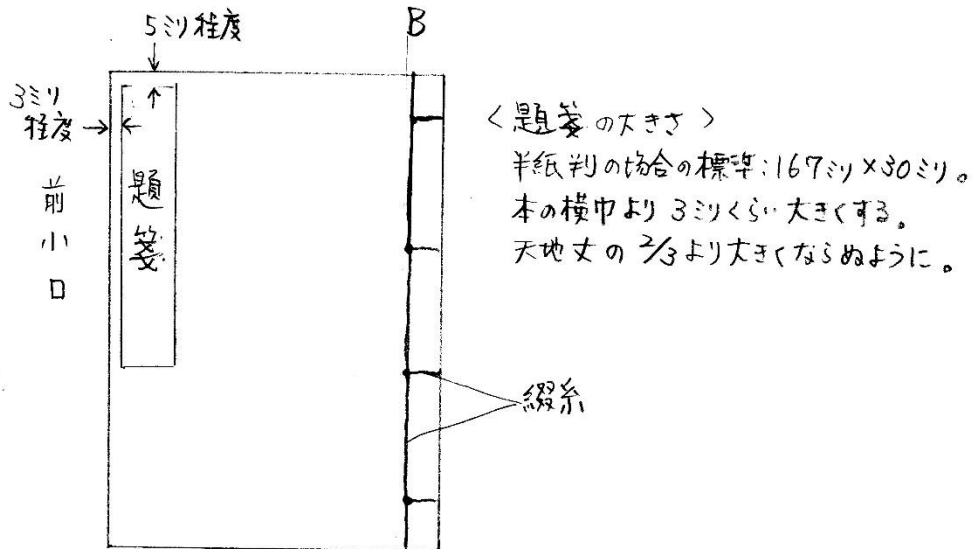
糸をピンと張りながら下図の順に綴じる。最後に結んでからもう一度表に出して糸を切る。



9、表紙と本体は、前小口側数ヶ所で糊止めする

10、必要に応じて題箋を貼る

題箋全体に糊を塗らず、縁だけ糊を塗って貼る。板に挟んで、重しを載せて糊を乾かす。



11、折り癖をつける

図のB線（表紙の綴じ糸の線から前小口側へ1ミリ程度のところ）に目打ちなどで筋をつけて、折り癖とする。

参考

「和装製本で手作りの一冊を」(『明日の友』148号、婦人之友社、2004)

『防ぐ技術・治す技術—紙資料保存マニュアル—』日本図書館協会、2005